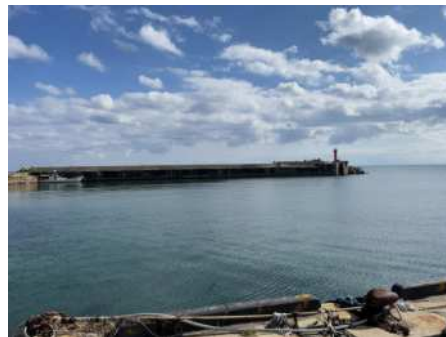


# 災害時の栄養支援とJDA-DATの活動 ～栄養と歯科との連携について～



2024年8月18日（日）  
日本災害時公衆衛生歯科研究会

（公社）新潟県栄養士会 JDA-DATリーダー  
防災士 土田 直美

1

## プロフィール

【資格】管理栄養士・JDA-DATリーダー（2018年度登録）  
防災士

【職場】新潟県柏崎地域振興局健康福祉部（柏崎保健所）

【学位】

2017年 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修士課程  
2020年 同 大学院医療福祉学研究科博士後期課程修了  
（保健学）

【所属団体】

中越市民防災安全士会  
日本防災士会・新潟県支部  
NPO法人ふるさと未来創造堂  
NPO法人うおぬま防災ネットワーク 等

2

## 本日の内容

- ☑ JDA-DAT とは？
- ☑ 令和6年能登半島地震におけるJDA-DATの活動
- ☑ 同職種・他職種（歯科を含む）との連携による被災地域の支援活動
- ☑ 今後に向けて

3

## JDA-DATとは？

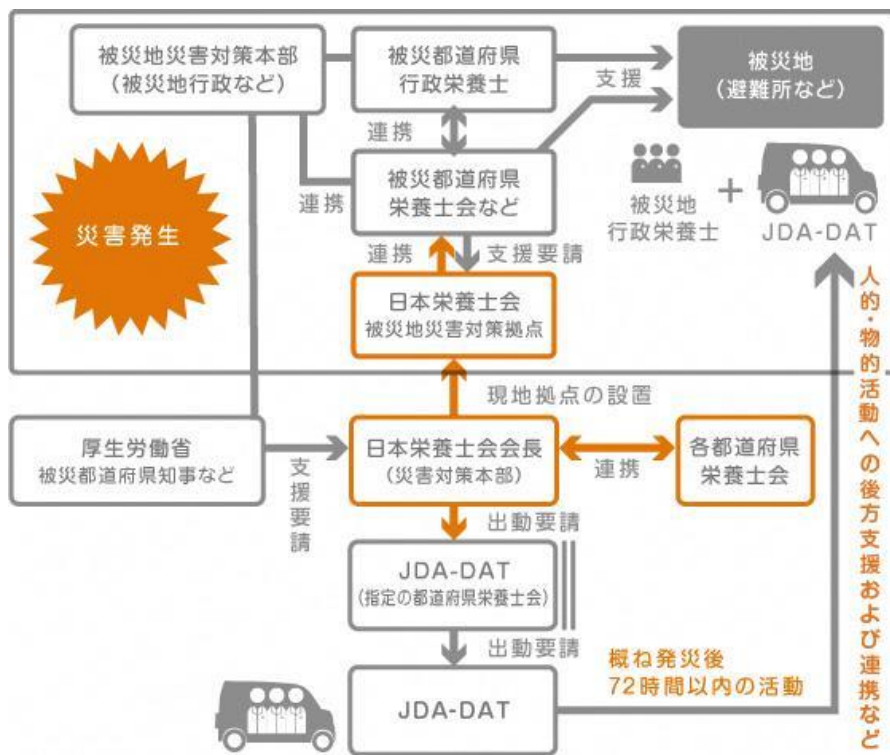
日本栄養士会が、平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに、大規模自然災害発生時迅速に、被災地での栄養・食生活支援活動を行うため

「日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT  
： The Japan Dietetic Association-Disaster Assistance  
Team）」を設立した。

2023年8月末現在の全国のリーダー数： 990名  
" スタッフ数：4,017名

2024年7月末現在 新潟県のリーダーは18名  
スタッフは27名

新潟県地域防災計画 防疫等保健衛生対策 栄養指導対策  
に位置付けられている



## JDA - DATの主な役割

### ① 情報収集

被災地の医療・福祉・行政栄養部門と連携し、情報の収集・伝達・共有化を行う。

### ② 緊急栄養補給物資の支援

必要物資の内容・量を把握し、物資の手配・分配の指揮を行う。特殊な栄養食品などについては、日本栄養士会に支援要請ができる場合もある。

### ③ 栄養補給

被災施設・避難所などで責任者の許可のもと、個人に対して直接栄養補給の支援を行う。

### ④ 対応の困難な被災者への支援

医療機関への連絡などの対応

→ \* ①の情報収集 (的確な状況とニーズの把握) が支援活動の前提となる

## 令和6年能登半島地震の概要

1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ約15kmでマグニチュード(M)7.6(暫定値)の地震が発生した。この地震により石川県羽咋郡(はくいぐん)志賀町(しかまち)で最大震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6弱以上の揺れを観測するなど、被害を伴った。また、石川県では長周期地震動階級4を観測した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。

【出典：気象庁HP】



## 令和6年能登半島地震におけるJDA-DATの活動

### ① 令和6年能登半島地震の発生から派遣まで

1月1日(月)

～2日(火) 安否確認・被災状況の把握(メール)、県庁報告

1月8日(月) 県栄JDA-DAT打ち合わせ会議

県内スタッフ・リーダーの発災からの動き確認、日栄動き共有  
リーダーLINE登録(スタッフ済)

1月13日(土) 栄養士研修会

リーダーよりR5の活動と発災からの厚生労働省・日栄の動きについて報告  
県栄から今後の派遣について情報提供

以降、Dimsによる派遣調整が始まる。

## DiMS (Dietitian Matching System)による支援者情報入力

DiMS ~Dietitian Matching System~ © Japan Dietitian Association

ホーム / 土田直美さん

こんにちは、土田直美さん

お知らせ一覧

各種様式

- ▶ 避難所食事状況調査票 [Excel] 会員限定
- ▶ 被災者健康相談票 [Word] 会員限定
- ▶ 避難所栄養指導計画・報告 (要配慮者名簿) [Word] 会員限定
- ▶ 特別食アセスメントシート [Excel] 会員限定
- ▶ 議事録 [Word] 会員限定
- ▶ 活動記録票 [Word] 会員限定
- ▶ 特殊栄養食品在庫管理表 [Excel] 会員限定
- ▶ 食品配食チェック表 [Excel] 会員限定
- ▶ 炊き出し実施計画表 [Excel] 会員限定
- ▶ 炊き出しチェック表 [Word] 会員限定

緊急情報

訓練終了しました→【2023/02/23 訓練】熊本地震への対応

派遣希望の日程入力→日栄による調整→チーム編成  
→ 現地での活動内容入力にも使用

DiMS ~Dietitian Matching System~ © Japan Dietitian Association

支援先一覧 / 支援先一覧

検索条件

検索結果 全: 1件

ステータス	名称	支援栄養士会	募集期間	詳細	支援日入力・確認	活動報告
支援活動中	令和6年能登半島地震(関東甲信越)	石川県栄養士会	新潟県栄養士会	2024/01/09 ~ 2024/03/31	入力・確認	報告

日本栄養士会 All rights reserved.

10

## ①令和6年能登半島地震の発生から派遣まで

- 1月27日 派遣チーム員最終決定(2/9~2/13)  
日栄から所属長あて派遣依頼文書発出  
→ 石川県への派遣は決定したが、具体的な自治体名はまだ不明
- 2月8日 金沢市・七尾市への派遣決定連絡あり(前日に決定)

(日栄からの文面)

- ①七尾を拠点に能登地区の各避難所巡回
- ②金沢市内の1.5次避難所(いしかわ総合スポーツセンター)での栄養相談・食事提供等

11

## 被災地域への移動

初日の動き(2/9)

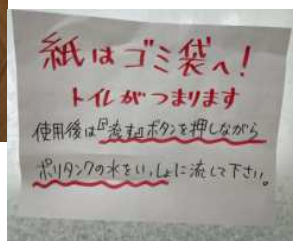
- 8:30 栄SAでリーダー車に同乗
- 11:20 金沢市着 リーダーは石川県栄事務所へ  
他2名はJRにて七尾駅まで
- 13:40 認定栄養ケア・ステーション「チームKYE栄養相談室」(特殊栄養食品ステーション)着  
ミーティング、特殊栄養ステーションの確認
- 16:00 宿舎へ移動

12

## 2月9日の【集合場所】

認定栄養ケア・ステーション「チームKYE栄養相談室」  
石川県七尾市御祓町1番地 パトリア3階

\* 派遣初日に初めて活動場所が「珠洲市」であることを知る



パトリア内トイレ



パトリア内「日本栄養士会  
特殊栄養食品ステーション」  
(2024年2月9日現在)



【宿泊場所】：日本栄養士会借り上げ宿舎  
宿は1棟を栄養士会で借り上げ  
<宿の状況>

断水により、水なし、風呂なし、電気あり、トイレは、流し用の水が宿で調達可能 (到着2日前に水道復旧)  
布団はあるが、シーツ交換が出来ないため、シーツは持参する

## ② 石川県珠洲市での支援活動

令和6年2月10日(土)～2月12日(月)まで

初日 栃木県、静岡県チームとの合同編成

JDA-DAT号での移動 (河村号、トアス1号)

派遣先 珠洲市健康増進センター

【石川県珠洲市の状況】断水、電気は復旧

令和4年12月31日現在

人口 12,947 名 世帯数 5,901 戸

高齢化率 **51.7%**

所管保健所 能登北部保健所

(管内市町：輪島市、穴水町、能登町、**珠洲市**)



(支所) 珠洲地域センター

## 被災地域での支援活動の実際 (2/10~12)

- 6:30 宿舎出発（七尾市）、JDA-DAT号で被災地へ  
（片道約3時間 途中水洗トイレが使える道の駅利用）
- 9:30頃 珠州市健康増進センターに到着  
調整役管理栄養士から訪問する避難所の状況について引継ぎ、センター出発  
現地活動（状況把握、要配慮者用食品調達、注意喚起、栄養指導）
- ・野菜の摂取状況の把握
  - ・カップラーメンの汁の摂取状況把握
- 要配慮者（食物アレルギー乳児）母への指導

18

## 被災地域での支援活動の実際 (2/10~12)

- 14:00 頃 センター到着、調整役管理栄養士への報告  
・引き継ぎ  
用紙記載・避難所栄養状態把握調査入力  
(Google form・・・D24H)  
終了後 昼食 (DAT号内で)
- 15:00 現地活動終了  
宿舎へ移動  
(明るいうちに帰宅するのが鉄則)
- 19:00 頃 給油（毎日）、食料調達（スーパーどんたくを連日利用）宿舎到着  
宿舎でミーティング、次のチームへの引継ぎ

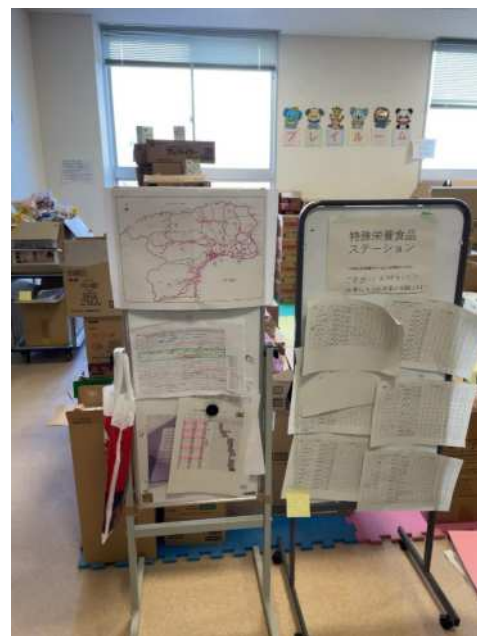
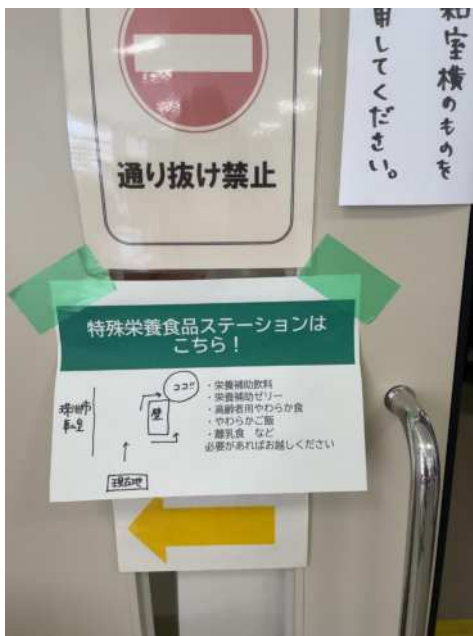
19

珠州市健康増進センター



歯科専門職チームも加わっていた





珠洲市健康増進センター内特殊栄養食品ステーション



珠洲市健康増進センター内特殊栄養食品ステーション

## 能登半島地震 被災地域の特徴

- ① 甚大な被害による劣悪な道路状況
- ② 避難所や集会所により食料・物資の提供状況に格差あり
- ③ 民間支援が多重的に複数参入
- ④ 派遣期間内でも大きくフェイズが変化  
(避難所集団への食料・物資の提供→個別支援・被災者自らが調理できるような支援へ変化)

### ① 被災地の現状





3台のJDA-DAT号

愛知県、京都府、静岡県、  
栃木県、長野県、新潟県  
のJDA-DAT

②



2/10：地区集会所（自宅は被災していないが食事作りができない方が多い）



医薬品の配備  
（申し出により手渡し）



2/11：地区集会所  
（骨折者あり）  
食料支援が乏しい状況





2/10：中学校体育館  
 ・自衛隊、日本財団など  
 多くの支援団体が入る  
 (体育館脇にはトイレ  
 カーも設置)



2/11：小学校  
 地元飲食業組合に  
 よる炊き出しの実施  
 \* 学校では授業も再開  
 されていた

先程の集会所  
 (乳アレルギーの1  
 歳児への食事支援)

一方、個人宅倉庫では・・・  
 (自宅での食事作りが進んでいる。  
 →栄養士会からのリーフレット掲  
 示)



いちご園栽培のビ  
 ニールハウスでの  
 避難生活(飲食と  
 居住空間を分ける  
 )  
 地域で協力しあっ  
 て生活

感染症対策として  
 隔離対応





## 能登半島地震 支援内容・形態の特徴

- ① 派遣期間内でも大きくフェイズが変化  
(避難所集団への食料・物資の提供→個別支援へ)



- ② 他職種連携による栄養・食生活支援活動
- ③ 同職種連携による栄養・食生活支援活動

33

## ② 他職種連携による栄養・食生活支援活動

- ・小学校(2/11)
  - 便秘女性への支援
- ・日本赤十字社
- ・神奈川県保健師チーム  
(ロジ：管理栄養士)
- ・新潟JDA-DAT



## ②他職種連携による栄養・食生活支援活動

- 集会所(2/12)
  - 様々なニーズへの支援
  - ・広島JDAT (口腔ケア・必要な支援や診療等)
  - ・新潟JDA-DAT (栄養支援：要配慮者用食品の提供→調理支援へ)
  - ・京都府保健師チーム (避難所における体調管理)

35

## ②他職種連携による栄養・食生活支援活動

- ・○ 集会所(2/12)
  - ・保健師による全体のニーズ把握
    - 体重管理の必要性：体重計の活用
    - (前日巡回した) 他県の歯科専門職チームによる巡回診療の結果フォロー
    - 感染症への対応の必要性
    - (自営隊の炊き出しもあるが) 足りない分を自ら炊き出しを行っている・・・困っていることがないか、カップ麺の利用状況 など

36

### ③ 同職種連携による栄養・食生活支援活動

#### ・ 珠洲市健康増進センター

市管理栄養士業務の支援（避難所巡回調整、医療調整本部会議への課題提案 など）

- ・ 福井県
- ・ 京都府
- ・ 熊本市
- ・ 神奈川県

いずれも保健師  
帯同で派遣

#### ・ 新潟JDA-DAT

石川県栄養士会・・・休日ボランティアとして参加



撮影は石川県栄養士会員  
ボランティアが担当  
(被災現場で7名の管理栄養士が地域を超えて連携)

### 現地支援を通じて感じたこと

チームによる支援活動が多い（多職種による編成）

<派遣当時、現地で出会った組織>

- ・ 保健師チーム（帯同）
- ・ DMAT
- ・ JMAT
- ・ DPAT
- ・ JDAT
- ・ DHEAT
- ・ 災害派遣ナースボランティア（看護師）
- ・ 日本赤十字社
- ・ 炊き出しボランティア（長岡からの支援） などなど

⇒ **求められる支援のあり方（被災者のニーズに沿った支援）・・・それぞれの強みを生かした活動**

### 今後に向けて（現在の被災地域の現状）

- ・ 中学校(7/14)

足湯ボランティアとして避難所支援活動に参加



今後に向けて（現在の被災地域の現状）

・高校(7/15)

足湯ボランティアとして避難所支援活動に参加



今後に向けて（現在の被災地域の現状をふまえて）

両避難所の共通点：コーナーの設置と共に、利用を促す人（人材）の定期的な巡回・支援が必要

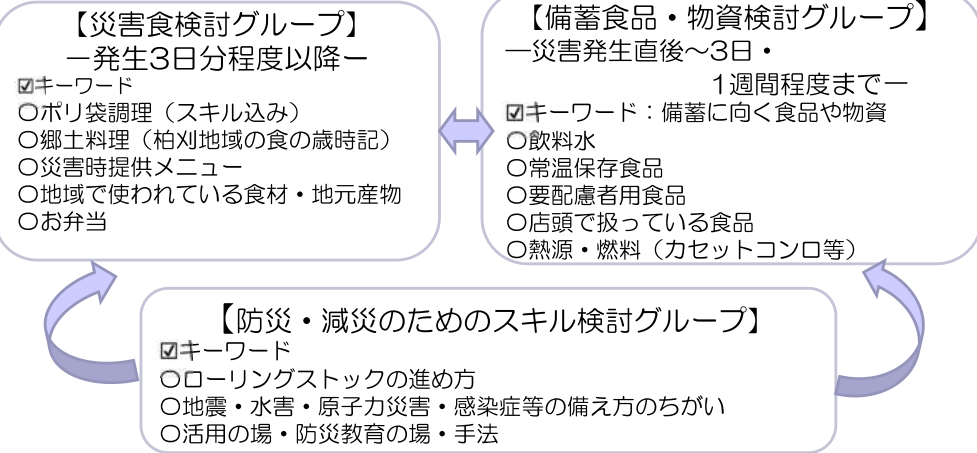
→仮設住宅の集会所や一般被災住宅へのアプローチが今後必要



「新・柏刈地域の災害時の食の備えリーフレット」  
策定ワーキングの実施体制

目指す方向：生活の強靱化を念頭に平常時から災害時に向けた食の備えの推進

平常時から進める連携した活動  
－新潟県の事例－



「新・柏刈地域の災害時の食の備えリーフレット」  
策定ワーキング会議（2022年10月14日）



検討会全構成組織の参画により  
リーフレットの骨子を検討  
→検討結果をもとにリーフレット案  
作成  
作成案に対する各組織との意見交換を  
繰り返し行う

2023年3月末 完成



- 災害から助かった「いのちを守る」（自分や家族・大切な人）
- 経験や知識・想いを「未来につなぐ」

→ リーフレットのコンセプト

- 柏崎・刈羽地域で経験した中越沖地震や新型コロナウイルス感染症への対応等を踏まえた「食のそなえ」が必要な理由

普段もいざというときも 健康に過ごす 柏刈地域の4つの食のそなえ  
「最低3日分、できれば1週間分、食事に配慮が必要な場合は2週間分の食品の買い置きがあると安心です」

水やお茶、飲みなれたもの等で水分を確保

普段使いの食品の買い置き（地場野菜や保存のきく食品、レトルトやパック製品の活用）

備えにくい食品も積極的に（大豆・乳製品等）地元で製造している食品も積極的に利用

食品表示の活用・日頃から確認する習慣を

特に日頃から使っているものを多めに買い置く習慣を身に着ける（災害時は入手が困難になるため）

食品リストをQRコードで紹介（関連する情報へのアクセスを簡単に）

（大雪や水害の教訓を踏まえ）  
● 熱源を複数もつ  
\*特に冬場の熱源や暖房への活用をカセットコンロとボンベの確保（耐用年数や保証期間の確認）

ポリ袋調理に適したポリ袋の仕様確認  
普段使いのもの確保  
\*紙食器づくりに向く厚手の紙もあると便利

健康管理に必要な物品の確保（感染症対応や衛生管理、口腔ケア）  
\*常備薬やトイレの確保も

地元の歯科衛生士さんと連携

家庭用備蓄を無理なく行う方法  
→「少し多めに買い置き」「使ったら使った分だけ買い足す」を生活スタイルに

「買い置きの食品を使ってポリ袋調理」  
詳しくは「ポリ袋調理法の手引き」（日本災害食学会編集）  
<http://www.mmjp.or.jp/TELEP/AC/d-food/poly-back-tebiki2021.08.pdf>

SDGs、普段使いにも役立つ

普段から作ってたべる  
・毎日の食卓で  
・家庭のイベントで  
・地域のイベント・集会で


# ポリ袋調理による災害食レシピ

簡単に温かい食事がとれ、少ない調味料で作れるポリ袋調理は、災害時のみならず普段から役立ちます。備蓄している食品や物資・道具を活用して日頃から作り慣れておきましょう。

**主食**

**ご飯**  
材料 (1人分)  
米……………1/2カップ  
水……………1/2カップ強

作り方  
①米をポリ袋に入れ、分量の水を加える。  
袋の空気を抜いて口を縛り、約20分置く。  
②①を沸騰したお湯の中に入れて20分煮る。



**主菜** 日頃も災害時も活用したいレシピ (備蓄しにくい大豆や乳製品を使ったメニュー)

**大豆のトマトカレー**  
材料 (1人分)  
ミックスビーンズ缶…1缶(30g)  
トマト缶……………100g  
ツナ缶……………小1缶  
コーン缶……………30g  
水……………30ml  
カレールウ……………1かけ

作り方  
①材料全てをポリ袋に入れ、袋の空気を抜いて上の方でしぼる。  
②①を沸騰したお湯の中に入れて20分煮る。

**サバ缶のミルク煮**  
材料 (2人分)  
サバ缶……………1缶  
ほうれん草……………1/2束  
きのこ……………50g  
スキムミルク…カレースプーン1杯  
水……………90ml  
こしょう……………少々

作り方  
①ほうれん草、きのこはキッチンバサミで食べやすい大きさにカットする。  
②材料全てをポリ袋に入れ、袋の空気を抜いて上の方でしぼる。  
③②を沸騰したお湯の中に入れて20分煮る。

基本の主食（ご飯）の炊き方について掲載

公衆栄養学臨地実習において学生が考案したレシピ掲載

⇒常温保存の食品を使って日頃から作り慣れておく工夫を

**お問い合わせ先**  
新潟県柏崎地域振興局健康福祉部  
☎ (0257) 22-4112

日頃から知っておきたい・活用したい  
**自治体の防災ガイドブック**

新潟県防災局 ホームページ  
柏崎市防災ガイドブック  
刈羽村防災ガイドブック



各地域で活用 自治体の防災関連情報へのアクセス掲載（日頃から活用する習慣を伝える）

# 県総合防災訓練での啓発普及



新潟県総合防災訓練（2023年10月15日）  
（関川村 ふれあいどーむ）  
\* 2023年より新潟県栄養士会としてブース出展  
→ 関係組織と連携した災害食の普及啓発  
\* 普段からの顔の見える関係づくり

# ご静聴ありがとうございました



2024/8/24(土)・25(日)  
**日本災害食学会**  
**2024 学術大会**  
中越地震20年：新潟から全国へ、そして世界へ  
会場：新潟日報メディアシップ2F 日報ホール  
（新潟市中央区）

